

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

明るく、健康的で、自主・創造性に充ちた意欲を持ち、進んで社会と人類の福祉に寄与するに足る人物を育成する学校をめざす。

- 1) 異世代・異文化交流によって多様性を享受できる環境を提供し、思いやりのある人物を育成する学校をめざす。
- 2) 地域連携を通して、自分を取り巻く社会の課題に目を向け意欲的に関わろうとする人物を育成するとともに、地域に信頼される開かれた学校をめざす。
- 3) 自然災害が多発している今日の日本において、自らの意志によって行動し、己を守り周りを支えることのできる、危機対応に長けた逞しい人物を育成するとともに、危機対応を前提とした安全教育・防災教育を推進する学校をめざす。

2 中期的目標

1 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校

(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力・支える知恵」の育成に取り組む

ア 教職員からの積極的な挨拶・声掛け等をとおして安心できる環境づくりに努め、すべての生徒に対して規範意識・人権意識の向上を図る。

イ 生徒会活動・学校行事の活性化、部活動の充実化を図る。

ウ 国際交流活動を推進することにより、グローバルな世界観を培う。

エ 「朝の読書」を通して読書を生活習慣の中に確立させるとともに、図書室の役割を強化し、生徒の読書意欲を喚起する環境を整える。

※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定的意見を令和7年度まで90%以上を維持する。(R2 90.7%, R3 88.9%, R4 94.4%)

※年間遅刻者延数前年度比10%の減少を図る。(R2 1570, R3 1363, R4 1543)

※部活動加入率を令和7年度60%以上を目標(R2 54%, R3 47%, R4 47.4%)とし、生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動関連の肯定的意見を令和7年度に80%以上とする。(R2 79.1%, R3 79.2%, R4 78.6%)

※海外語学研修および国際交流事業を積極的に展開していく。また、より多くの生徒が関わることができる取組みとして実践していく。

※生徒向け学校教育自己診断における朝の読書関連の肯定的意見80%以上とする。(R2 83%, R3 78.8%, R4 82.3%)

(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく

ア 文系選抜コースで、実践運用能力重視の英語の授業、読解力・表現力を取入れた国語の授業を展開し、難関大学への合格をめざす。

イ 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる。

ウ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む。

エ 進学講習を組織的に実施する。

※外部指標のある教材や模擬試験を活用し、進学希望者に自己の学習定着度を見つめさせ、進学への意識を高めさせていく。

※卒業生の全進学合格数に占める4年制大学合格者を令和7年度まで55%を維持する。(R2 56.9%, R3 55.8%, R4 57.4%)

※学校斡旋の就職内定率を100%とする。(R2 100%, R3 100%, R4 100%)

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導関連の肯定的意見を令和7年度まで90%以上を維持する。(R2 88%, R3 90.2%, R4 94.6%)

(3) 安全で安心な学校づくりを行う

ア 教育相談室を活用し教育相談体制を充実させる。担任・SC・SSW等との面談や対応がスムーズに活用できる体制を構築する。

イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、ガイダンス・HRの系統化を図る。

ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進、支援の充実を図る。

エ 地元自治体や地域との連携のもと、防災・減災に向けた取組み及び緊急避難対応等への取組みを推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談関連の肯定的意見を令和7年度に70%以上とする。(R2 64%, R3 51.9%, R4 61.6%)

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育関連の肯定的意見を令和7年度まで90%以上を維持する。(R2 83%, R3 86.7%, R4 92.4%)

※障がいの有無にかかわらず、配慮の必要な生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実。

2 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校

(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる

ア 授業において、常に生徒の知識欲や満足度を高めるための研究と実践を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る。

イ 学期ごとに学習の定着度を確かめ、生徒のフォローを学年・教科担当者全体で行う。

ウ 1人1台端末および全教室ICT機器設置の環境を積極的・効果的に活用し、より魅力ある授業の取組みを進める。

エ 放課後や休日における学習習慣が定着する取組みを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和7年度まで80%以上を維持する。(R2 81%, R3 83.1%, R4 82.2%)

※教職員向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和7年度まで90%以上を維持する。(R2 88%, R3 91.7%, R4 94.1%)

(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる

ア 社会の変化に対応し「学び続ける」意識の共有化を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善をさらに推進する。

イ 「働き方改革」や健康管理の観点から、全校一斉退庁日の設定とノークラブデーの徹底を図る。

※相互授業見学への教員の参加を、授業アンケート等を活用して前年度以上に増やす。(R2 83, R3 148, R4 113)

※若手教員技量向上へ(新採3年めまで対象の)新三研修を継続させ、それを全体研修へと発展させていく。

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校

(1) 公立高校として地域の信頼に応えていく

ア 【学校を外に開く】自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、小・中学校等との交流を通して地域貢献を推進する。

イ 【学校を外に開く】中学校訪問や中高連絡会を実施し、中学校との連携を強化する。

ウ 【学校を外に開く】高石市や近隣自治体の自然災害に関する事業連携を継続し、地震・津波等に対する危機管理意識の更なる向上を図る。

エ 【学校を内に開く】学校説明会、HP等を活用して、積極的な情報発信に努める。

- オ 【学校を内に開く】学校運営協議会、PTA、同窓会、後援会との連携を強化する。
- ※地域交流が活発であったか。
- ※生徒、教員による中学校訪問合計数 100 件以上を維持する。(R2 30, R3 77, R4 111)
- ※クラブ体験を含めた体験入学者数、学校説明会参加者数の合計延べ 700 名を維持する。(R2 769, R3 710, R4 827)
- ※生徒向け学校教育自己診断における危機管理関連の肯定的意見 80%以上を維持する。(R2 90.8%, R3 91%, R4 93.3%)
- ※保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定的意見 80%以上を維持する。(R2 87.2%, R3 83.6%, R4 91.3%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】 総じて肯定的な回答の割合が高いが、今年度も質問 11「担任の先生以外にも職員室、相談室や保健室等に、気軽に相談することができる先生がいる。」の肯定的な回答の割合が 64.5%と低い。生徒が相談しやすくなるように、日頃から教員が生徒との信頼関係を築くとともに、教育相談体制を充実させる必要がある。</p> <p>また、昨年度から追加した質問 25「生徒会活動は活発である。」については、肯定的な回答の割合が昨年度の 78.6%から今年度は 85.0%と大幅に上昇した。生徒会活動の充実に向けて様々な取り組みを進めたことが一定消化されたためと思われる。授業については、質問 3「授業はわかりやすく、工夫されている。」と質問 4「先生は、勉強をはじめ自分ががんばっていることを認めてくれている。」については、それぞれ昨年度より 3.8 ポイント、4.3 ポイントずつ上昇している。一方、質問 5「授業は静かで集中できる。」については昨年度に比べて 5.5 ポイント下降しているが、教職員アンケートでは昨年度に比べて 14.4 ポイント上昇している。その明確な理由は不明であるが、新型コロナウイルス感染症への対応が変わり、授業がよりアクティブになったことも影響しているのではないかと推測される。</p> <p>【保護者】 質問 3「担任をはじめ学校から、学校行事、懇談会、説明会などの情報は適切に伝わっている。」と、質問 2「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。」については、肯定的な回答の割合は、58.9%と生徒の割合 86.1%に比べてかなり低い。今後も授業改善に向けた取り組みをより一層進めること、及び保護者への情報発信の充実が必要である。</p> <p>質問 14「文化祭、授業参観や PTA 活動などで学校に行ったことがある。」は、今年度は 60.5%と昨年度の 53.3%から大幅に増加した。また、質問 13「体育祭や文化祭などの生徒会行事が活発である。」も、今年度は 95.7%と昨年度の 89.7%から大幅に増加した。新型コロナウイルス感染症の 5 類への移行に伴って、学校行事が以前の状態に戻ったことが評価されたと思われる。</p> <p>質問 7「本校では、教育活動に必要な情報や連絡事項を、生徒・保護者・地域へ周知するよう努めている。」も、今年度は 86.5%と昨年度の 82.3%から大幅に増加した。今年度から保護者への配布物をさくら連絡網のメッセージ機能で配信するようにしたことが功を奏したと思われる。</p> <p>【教職員】 質問 2「校長のリーダーシップのもと、教職員相互の信頼関係に基づいて、教育活動が行われている。」について、肯定的な回答の割合は今年度は 36.7%と昨年度の 50.0%から大幅に減少した。教職員相互の信頼関係を高めるための方法を模索する必要がある。</p> <p>質問 21「朝の読書は、よい取り組みである。」について、今年度の肯定的な回答の割合は 70.0%と昨年度の 47.1%から大幅に上昇した。保護者の肯定的な回答の割合も 92.8%と高いので、今後も取り組みを充実させていきたい。</p> <p>質問 4「授業は静かで、生徒は集中している。」については、生徒アンケートでは肯定的な割合が昨年度に比べて 5.5 ポイント下降しているが、教職員アンケートでは昨年度に比べて 14.4 ポイント上昇している。その理由は不明であるが、おそらく新型コロナウイルス感染症への対応が変わり、授業がよりアクティブになったことも影響しているのではないかと推測される。</p> <p>質問 13「本校では、部活動を充実させるために、工夫と改善を行っている。」については今年度の肯定的な回答の割合は 80.0%と昨年度の 61.8%から大幅に上昇した。今年度は入学生については、クラブ活動入部を 3 日間で 2～3 つ体験させたことにより、部活動入部率を昨年度の 47.4%から 68.4%に大幅に増加させることに成功した。</p> <p>質問 6「本校では、教職員が生徒の様子や学習の評価について、話し合う機会がある。」、質問 7「本校では、教育活動に必要な情報や連絡事項を、生徒・保護者・地域へ周知するよう努めている。」質問 9「本校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。」、質問 14「本校では、教職員が人権尊重に関する課題や指導法について、話し合う機会がある。」、質問 23「本校では、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の 4 つの質問項目については、昨年度に比べて肯定的な回答の割合が 10 ポイント以上下降しており、次年度以降に向けて改善のための方策を考えていく必要がある。</p>	<p>第 1 回 (令和 5 年 7 月 6 日実施) <学校経営計画に関連して> ○学習習慣の定着や、ICT の活用はどのように測るか。 →家庭学習の時間のアンケートを取ったり、授業における ICT 機器の活用状況の自己評価アンケートを取ったりしており、その結果で判断する。 ○家庭学習の時間はどれぐらいか。 →1 年生は平均 2 時間だが、2 年生の平均は、1 年生を大幅に下回る結果となっている。</p> <p><生徒会活動について> ○部活動の体験を増やしたのは良いやり方に思える。まずは体験して何をしているかが分からなければ始めようがないため、体験はした方がよい。スポーツを楽しむという観点から、入るのもやめるのも自由、1 年生と 2 年生で違う部活に入るのも自由といったように、柔軟に対応できるといいのではないかと。一つの部活に入部しても自分に合う合わないはどうしてもあるので、いくつかやってみるものを探せばいい。競技ありきの部活になりがちだが、キャッチボールを楽しもうというぐらいの軽い、楽しむための部活があってもよいのではないかと。</p> <p><PTA 活動について> ○文化祭では、通販アプリなど影響で物が集まらないため、バザーは行わない。</p> <p><広報活動について> ○学校のブログはあるが、中学生はブログよりも SNS の方がよく見るのではないかと。 →広報の対象者が中学生であればそうだが、保護者などはブログの方が良いと思われるため、保護者を対象とした広報ということで、ブログにしている。以前、韓国からも問い合わせがあったため、見ている人は十分いると思われる。</p> <p>第 2 回 (令和 5 年 9 月 9 日実施) <外部人材の活用拡大について> ○教員の多忙化が問題となっているので、部活動やそれ以外でも外部人材の活用について積極的に取り組んで必要がある。 →今年度から部活動指導員や学校支援社会人等指導者の予算枠が拡大され、本校でも運動部活動における外部指導者の活用人数が 2 名から 5 名に拡大している。運動部の数からするとまだまだ十分とは言えないが、少しずつ増やしていければと考えている。</p> <p><生徒の不登校等の状況について> ○不登校となっている生徒の割合などに変化が見られるか。 →今年度について特段不登校の生徒の数が増えているということはないが、入学式の翌日から不登校となった生徒など気になるケースが存在する。また、文化祭準備などの様子を見てみると、生徒のコミュニケーション能力が従前と比べて低下しているのではないかと懸念を感じている。中学校時代にコロナ禍により様々な活動に制約を受けたことが、生徒のコミュニケーション能力に影響しているのではないかと推測している。学校としてコミュニケーション能力の向上に向けて、集団活動の充実などさまざまな方策を考えていきたい。</p> <p>第 3 回 (令和 6 年 3 月 22 日実施) <アンケートについて> ○以前、子供からのプリントが届かないということを学校に伝えたら、さくら連絡網で連絡が来るようになった。こういった経験からも学校に意見を届けることは重要なので、アンケートにこたえていきたい。 ○教員のアンケートで 30 人しか回答していないのは少ないので、やり方を考えるべきではないか。</p> <p><PTA 活動について> ○本年度、文化祭のパンの販売を再開した。前回は知る人がほとんどいなかったため苦労したが、午前中に完売することができた。</p> <p><部活動について> ○人口減によって学校の規模は小さくなってきている。そのような中、現在と同じ形でクラブを維持していくのは、困難になっていくと思われる。対策を考えていかねばならない。 ○コンピュータ研究部が 17 名と、文化部として多いのは、時代を感じて趣深い。 ○吹奏楽部の演奏など、地域で非常に好評である。 ○ボランティア活動などで見識を広げたい生徒がいれば、ぜひ言ってほしい。</p> <p><生徒状況について> ○35 期の頃は遅刻が多かった。その頃と比べると減ってきているように感じる。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	n
1 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感でき学校	(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」の育成に取り組む	(1) ・部活動への入部を奨励し、生徒の自立心を育む。 ・国際交流の機会を増加させる。 ・「第四次大阪府子ども読書活動推進計画」の基本方針のもと、朝の読書を行う。 ・遅刻者数を減らす。	(1) ・部活動入部率 55%以上 [47.4%] 入学当初より勧誘を行う。 ・(海外)語学研修等参加件数 1 件以上、海外の学校との交流件数 2 件以上 [語学研修参加数 2 名、交流事業数 3 件] ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見 80%以上[82.3%] ・年間遅刻者延数 1300 名以下とする[1543 名]	(1) ・部活動入部率 68.4%。(◎) 今年度入学生については、入学時に体験クラブ希望調査を行ったうえで、クラブ活動入部を 3 日間で 2～3 つ体験させたため、部活動入部率が大幅に増加。 ・ドイツからの青少年スポーツ交流団の受け入れとタイの高校生の受入れの計 2 件実施。また、高校生国際会議にオンラインで 1 名参加。(○) ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見で、目標に届かなかった 78.4%。(△) ・遅刻者数 1228 名(○)。祭りと寄り合いが復活し、2 学期に激増している。保護者との連携をより強める必要がある。
	(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく	(2) ・外部指標教材を活用し、学力の向上を図る。 ・進路希望を実現するために、最後まであきらめない意識を持たせる。	(2) ・4 年制大学合格率を、実人数で 88%維持する[90%] ・学校斡旋の就職決定率 100%を維持する[100%] ・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定的意見 90%以上を維持する[94.6%]	(2) ・4 年制大学合格率 93.0%。(◎) 今年度は指定校推薦に流れず、一般試験で頑張る生徒が増えている。 ・学校斡旋の就職決定率 100%。(○) ・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定的意見 95.9%。(◎)
	(3) 安全で安心な学校づくりを行う	(3) ・学年団、各分掌で生徒情報を共有する。 ・教育相談委員会を充実させ、SC とともに、生徒が相談しやすい環境作りに努める。 ・人権平和教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。 ・防災・減災への積極的な取組みを図る。また、これらの安全教育や危機管理等の取組みを通して、外部組織・団体との交流や支援活動等を推進し地域貢献を図る。	(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見を 70%以上とする[70.6%] ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見 60%以上とする[61.6%] ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見 90%以上を維持 [92.4%] ・生徒による防災・減災の実践報告や発表を 3 回以上学校内外で実施する[3 回] ・防災減災に関連する対外的活動や交流を実施する	(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見 53.3%で、目標に届かなかった。(△) ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見 64.3%。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見 94.8%。(◎) ・報告・発表は年 3 回実施。(○) 10 月に高石中学で発表会を実施。1 月に宮城県多賀城高校で代表生徒 3 名がこれまでの本校の防災の取組みを発表し、交流した。2 月に校内で 3 回めの報告会を実施した。

府立高石高等学校

<p>2 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校</p>	<p>(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる</p> <p>(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる</p>	<p>(1) ・家庭等での学習を定着させる。 ・単元が終わるごとに、科目担当者同士で授業の進捗や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。 ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すため ICT 機器等を活用した教材や指導法を研究し実践する。</p> <p>(2) ・授業アンケート結果及び校内外の授業見学を通して、授業改善に取り組む。 ・初任3年めまでの教員を対象とした「新三研修」を継続し、研究授業とともに振り返りも行う。 ・「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って、教員の健康管理の観点から、時間外在校時間の縮減を行う。</p>	<p>(1) ・1日平均学習時間60分以上 [27分] ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見80%以上を維持[82.2%] ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見を90%以上維持[94.1%] ・生徒向け学校教育自己診断「ICT機器等の効果的活用」の肯定的意見85%以上を維持[87.1%]</p> <p>(2) ・教員相互の授業見学を80%以上 [79.4%] ・全教員の延べ校内外授業見学総数を100回以上 [113回] ・「新三研修」に初任3年めまでの教員が全員参加する ・コロナも収まりつつある中、会議の回数を絞る等の工夫をすることによって、月平均時間外在校時間を前年度実績以下に抑える [29h37min]</p>	<p>(1) ・1日平均家庭学習時間22分。(△) 家庭で学習しない生徒が増えている。保護者との連携がより必要。 ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見86.1%。(◎) ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見96.7%。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「ICT機器等の効果的活用」の肯定的意見88.9%。(◎)</p> <p>(2) ・教員相互の授業見学76.7%。(△) 見学期間を設ける等の工夫が必要。 ・全教員の延べ授業見学総数108回。(○) ・「新三研修」は、初任3年めまでの教員は全員参加した。(○) ・月平均時間外勤務時間は、3月末までで26時間57分。(◎) 毎週水曜日を定時退庁ゆとりの日と定め、午後5時に管理職が退庁を促すように校内を巡回して呼びかけるなどの取り組みを進めた結果、昨年度から大幅に減少させることができた。</p>
<p>3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校</p>	<p>(1) 公立高校として地域の信頼に応えていく</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】 ・自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、小・中学校等との積極的な交流を通して、地域に貢献する。 ・高石市連携の地震津波合同避難訓練で水平避難を実施。 ・教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心にした中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。 【学校を内に開く】 ・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらおう取り組みを実施する。 ・学校情報の外部発信に努める。 ・創立50周年に向けて準備をすすめる。</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】 ・年20回以上、出前授業や生徒派遣等を行い、諸団体・組織との交流を積極的に図る [19回] ・市との合同避難訓練を実施し、「探究『防災減災』」の成果発表を市と複数回共有する機会を作る ・広報委員会を核とする学校全体での外部訪問件数を前年度以上とする [111件] 【学校を内に開く】 ・学校説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ700名を維持する [827名] また、保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定的意見90%以上を維持する [91.3%] ・積極的な情報発信に努める。広報紙「たか高トピック」を毎月定期的に発行 ・創立50周年に向けて同窓会、後援会との連携の機会を学期ごとに持つ</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】 ・出前授業や生徒派遣等を年24回実施。(○) ・合同避難訓練は11月1日に実施済。(○) また、3月に高石市役所に出向き、市長・副市長との意見交換会・報告発表会を行う予定。(○) ・外部訪問件数113件。(○) 外部会場で開催される合同学校説明会にも積極的に参加して、精力的に広報活動を行った。 【学校を内に開く】 ・説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ808名。(◎) 保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」(=「高石高校に入学させてよかった」肯定的意見91.5%。(◎) ・広報紙「たか高トピック」を12月まで月1回以上発行。周辺施設や来客に配布、HPにも上げ好評を得る。(◎) ・創立50周年に向けて同窓会と月1度以上の頻度で、高石高校の情報を共有。後援会とも情報共有を行った。(○)</p>